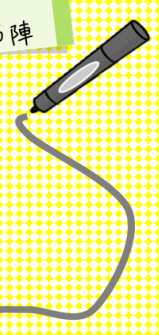


みちのく ワークショップ フォーラム2017

学びを体感!
現場で活躍中の
個性あふれる講師陣



講師&ワーク もっと詳しくご紹介します!

ワークショップフォーラムの醍醐味である「自分で講師を選ぶ」という作業。この時点で1つ「自分と向き合う」という作業を行っていることとなります。ただ、チラシ上では、限られた文字数の中でしか内容をご紹介できないため、どのワークが自分に合っているのか、悩まれている方も多いかと思います。

そこで、Facebookの中でご紹介していた講師&ワーク紹介の内容を、紙ベースにも集約いたしました! 各講師の普段の活動の様子や、今回のワークにかかる意気込みなどをご覧ください、講師選びの材料としてください。

これをご覧いただいた上で、それでもまだ自分では決めきれないという方は、遠慮なく当センターまでご相談ください! スタッフと一緒に考えます(^)/

プロフェッショナルコース 1ワークのみ選択

①~③はプロフェッショナルコースの講師です。午前・午後通して1人の講師からじっくり学びます。

【講師紹介①八丸由紀子さん】プロフェッショナルコース

八丸さんは盛岡市玉山区にて「80エンタープライズ, Inc.」という馬の牧場を営んでおります。しかし面白いのがこの牧場、ホームページの会社概要に記載してある「主な事業内容」のトップに来るのが「コーチ型リーダーの育成とコーチングマネジメントの普及」。牧場なのになんで?? そのお答えを八丸さんからのメッセージでご紹介します。

普段は、盛岡市にある八丸牧場という「馬」の牧場にあります。そこで、馬たちを介在させた企業研修やパーソナルコーチングを実施しており、パートナーシップやリーダーシップ、それに加えて、関係構築についての学びを深める機会を提供しています。

本来馬たちは、群れを形成して集団で生きている動物で、相互がコミュニケーションを交わしながら絆を形成し、群れの中で秩序を保っています。また馬たちは、私たちの「自己リーダーシップ」を高めていくプロセスに大いに貢献してくれる存在でもあります。そんな中、みちのくワークショップフォーラムでは、実際の「馬」は登場してきませんが、私どものこれまでの取り組みを総結集して、ご参加いただける皆様に“主体的な組織づくり”について一緒に深めていく有意義な時間にしていきたいと考えています。

八丸さんは「文部科学省認可(財)生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ」という肩書もお持ちで、企業や団体向けのコーチングの経験も抱負です。

また、2007年に開催された「ドリブラ」こと「ドリームブランプレゼーション世界大会」の記念すべき第1回大会で「感動大賞」を受賞し、2009年にはフジTV「奇跡体験 アンビリバーボー」にも愛馬とのストーリーを取り上げられたことも。ワークショップフォーラムでは「チームのリーダー的なお立場にある方(チームの規模は不問)」に向けて、「ナチュラルホースマンシップとコーチング」の手法をベースに、「主体的なチーム(組織)づくりについて」を考えていきます。

【80エンタープライズ, Inc.】

<http://80enterprise.com/>

【講師紹介②澁谷和之さん】 プロフェッショナルコース

秋田から参加、澁谷デザイン事務所代表の澁谷和之さんは、過去の参加者に「オーラそのものがデザインのかたまり」とまで言わせるほどのデザインの申し子です。澁谷さんは1980年、秋田県美郷町生まれ。宮城大学事情構想学部・デザイン情報学科・空間デザインコース(建築専攻)を卒業後、総合広告代理店(東京)に就職。2009年3月に秋田に戻り「澁谷デザイン事務所」として独立。現在は、秋田県内および東北を中心に活動されています。「デザイン」という概念が変わるような、かなり幅の広いお仕事をされている澁谷さん。以下は澁谷さんからの活動紹介メッセージです。

基本的には地元の民間企業様および、個人でお店等を経営されている方のトータルブランディングや広告宣伝のお手伝いをメインに活動しています。また、最近では「商店街」など、広いエリアでの地域活性化にデザインを掛け合わせることでお手伝いすることも増えてきています(例えば、地域の魅力や価値を編集・発信する書籍・エディトリアルデザインなど)。他、その地域らしい、さまざまなイベントの企画提案を行っています。

デザイン業界の方には「澁谷さんが一関に来て講座をやっていることが奇跡に近い」と言わせるほど、知人ぞ知るデザイン業界では注目の人。というのも、澁谷さんはデザイン業界のカリスマ・高知県在住の梅原真さんとタックを組んで秋田県からのお仕事をされていたり、その中でこちらも知人ぞ知る藤本智士さんとタックを組んで「のんびり」というフリーペーパーのレベルを越えたフリーペーパー(秋田県のフリーペーパー)を手掛けたり、事例を聞いていると「え！？これもそうなの！？」と思うようなお仕事がたくさん！

デザイン＝机上でオシャレさや格好良さ、見やすさなどを追及するようなものではなく、そこまでのプロセス(＝「編集」)が大切なんだ、ということ、澁谷さんはその事例と人柄をもって大きく痛感させてくださいます。そして今回のワークでの大きなゴールとして「今後の首都圏と地方(地域)のそれぞれの在り方について、デザインという観点から考えてみたい・行動してみたい」という方たちと「共に『東北・みちのく』という地域の仲間として気持ちを共有できたら」と、かなり熱い野望を設定してくれています！

イメージとしては、制作物等のデザインそのものではなく、そもそも「何を作るか」もつとて言えば「何を切り取るか」「何を見せるか」という「編集力」を培うためのコースです。自分の地域・団体等の持ち味をどう抽出し、どうデザインに集約していくか、そんな内容になっていくかと思えます。

気になった方は、まずは下記の澁谷さんが携わっている企画に少しお目通しください。「え！？デザインって…そういうこと！？」とさらに気になってしまうこと間違いなし！

【澁谷さんが携わる企画(勝手にチョイス)】

<毎日大曲><http://everydayomagari.jp/index.html> <のんびりし～な><http://cna.non-biri.net/>

【講師紹介③小野寺浩樹さん】 プロフェッショナルコース

当センターのセンター長も参戦します。まずは小野寺からのワークイメージとメッセージです。

少子高齢化、人口減少社会がクローズアップされ、地域づくりを煽るような傾向が目につきます。しかし、地域づくりは煽りや焦りで行っても根付かず、地域住民が主体的になって取り組む必要があります。いちのせき市民活動センターは、NPO活動や地域コミュニティ活動を市民が主体的に行えるよう支援しておりますが、特にも、危機感を仰ぐのではなく、地域づくりの必要性を説きながら、納得を生み出すことに重点を置いています。

納得を生み出すためには、みんなで話し合いをすること！話し合いや会議は、日頃から頻繁に開催されていますが、果たして頻繁に開催していいのでしょうか？もっと効率的に開催することはできないのでしょうか？

今回のワークは、日頃、会議を開催することが多い方を対象として、場面場面で使える話し合いのネタを体験していただきます。アイデアを出し合う時は、こんな手法！などなど。

話し合いが活性化すればチームが活性化します。単なる話し合いの手法と侮るなかれ！話し合いを通したチームビルディングの体験にもなれば幸いです。また、みなさんの会議のお悩みについても聞かせていただきながら、どんな対処法を講じるかなども考えられたらいいなと思っています。

いちのせき市民活動センターを前身時代から支え、牽引すること10数年。ありとあらゆる現場を経験してきた当センター長・小野寺だからこそそのノウハウを聴くことができる、体験することができる、これは部下がいうのもなんですが、かなりありがたい機会だと思います。

「ワークショップはなまもの」と良く言われますが、その現場・現場で同じ手法でもまったく反応が異なります。どんな場面でどんな手法を使えば有効なのか、またはその手法が上手くいかなかった時、どう軌道修正すれば良いか、これはやっぱり経験値に勝るものはありません。当センタースタッフもまだまだ経験不足で、何かあれば小野寺にアドバイスをもらうわけですが、そのたびに「なるほど」と感心させられます。

ワークショップを使つての会議をすることがあるけど、どうも上手くいかないんだよね…という方や、ワークショップやファシリテーションについての知識はあるけどまだ導入するには自信がない…そんなみなさんにおススメします！

スタンダードコース 午前・午後から1ワークずつ選択

ここからはスタンダードコースの講師紹介です。

④～⑥が午前の講師、⑦～⑨が午後の講師。午前・午後の各講師の中から1人ずつを選択します。

【講師紹介④若菜千穂さん】

NPO法人いわて地域づくり支援センター常務理事の若菜千穂さんは茨城県出身で、岩手大学農学部を卒業後、北海道札幌のコンサルタント会社に就職されましたが、平成17年に出産を機に再び岩手へ。現在の職務に就かれました。NPO法人いわて地域づくり支援センターは、事務所は花巻にありますが、岩手県全域をサポート対象とした中間支援組織です。センターの代表さんが岩手大学農学部の教授であり、農村計画を専門としていることや、若菜さんもその出身であることから、特に農山村地域のサポートに力をいれているそうです。現在サポートに入られている主な活動地域は、西和賀町内、雫石町内、久慈市内、遠野市内、奥州市内など、県内各地でご活躍されています。日頃の活動については若菜さんからいただいたメッセージの中からご紹介(一部)します。

少子化や高齢化が進み、地域では担い手が減り、子供も減り、何となく元気がなくなったと感じている地域や、集落行事等が行えなくなっている地域、将来安心して住み続けられるか不安を感じる地域が増えています。そのような地域において、地域住民自らが地域の課題を発見し、課題に対して“ちょっと頑張ればできること”を自ら選び、取り組んでいくという課題解決の実践を繰り返すことによって“地域力”を高めていくお手伝いをしています。
地域活性化は、地域住民だけでできることではなく、市町村行政との協働や行政の本気も必要になってきます。そのため、市町村行政に対する協働への意識啓発や研修、実践を通じた体制見直し等にも力を入れています。

そんな活動をされている若菜さんが今回展開してくださるのが、その名も「私の幸福、私を包む幸福を考えるワークショップ」。気になる内容は「自分の幸福を形づくる要素とはなにかを、幸福カルテの記入と指標化を行った後、小班に分かれて、ワークショップを行い、自分が幸福になるためにできることを探っていきます」とのこと。

「幸福カルテ」が気になる方も多いかと思います。「日々の暮らしや人生をちょっと変えてみたいいな～と思っている方におすすめ」と若菜さんはおっしゃっていますが、個々人の幸福を形づくる要素を考えていきながらも、きっと団体としての幸福、地域としての幸福…などと、様々な対象に置き換えていけるのではないかと思います。

ですので、自己実現や自己啓発としての受講もできますし、地域づくり活動等に関わってらっしゃる方が、自身の団体等の活動を改めて見つめ直す機会として応用することも可能かと。ぜひそうした視点での受講もお待ちしております！

【NPO法人いわて地域づくり支援センター】

<http://iwa-c.net/>

【講師紹介⑤佐藤佑樹さん】

一関千厩からの初参戦の佐藤佑樹さんは、大学卒業後、東京の空間デザイン事務所に勤務していましたが、2013年に農村地域づくり活動支援員(≒地域おこし協力隊)として一関にUターン。3年間の市役所(室根支所)での勤務を経て、2016年、個人事業主として地元・千厩にタスクデザインを開業。一関市内を中心にデザイナーとして活動しています。

農村地域づくり活動支援員としての活動の中でも地元企業や団体の製品パッケージやラベル、ロゴのデザイン等を手掛けてきた佐藤さん。そこに関わる様々な人たちの声を丁寧に聞きながら、それぞれの想いを1つの形にしていく、そのプロセスをすごく大事にされている印象があります。みんなの納得を得ながら1つにまとめあげるのとは簡単なことではありません。ではここで佐藤さんからのメッセージです。

地元一関を中心にデザインの仕事をしています。印刷物の取り扱いが多いのですが、映像の企画やイベント会場の構成なども行うことがあります。伝え方、見せ方の方法は一つではありません。どんな方法で伝えるか、どんな見せ方をすればいいのか？アイデアを駆使して、伝えたい想いを形にしていく作業がデザインの楽しいところです。地域で何かを企んでいる方々と一緒に「お！」と思ってもらえるようなデザインを作っていけたらと思っています。

今回は「想いを形にするデザインワークの過程」を、事例を通してご紹介いただきながら、想いを伝えるためにはどんな方法があるのか、そしてその手法を、ワークショップを通じて体験していただきます。

「地域でオリジナル商品の開発をしようと思っている」人や、その販売に携わる方々、「個人や組織・団体にロゴマークなどを作ろうと思っている」という方々など、具体的に何か「カタチにしたい思い」があるみなさんに、ぜひおすすめしたいワークです。

【タスクデザインさんが手がけた商品パッケージ事例(勝手にチョイス)】

<http://www.nosai.or.jp/mt6/2016/08/post-3433.html>

【講師紹介⑥三浦まり江さん】

陸前高田から2回目の講師参加となる三浦さんは、NPO法人陸前高田まちづくり協働センターの理事長として日々奮闘されており、今年もリアルな現場目線での会議ファシリテーションのポイントをワークを通してレクチャーしていただきます！三浦さんからのメッセージです。

陸前高田市で地域づくりの支援をしています。陸前高田市は東日本大震災からの復興途中にあり、市民主体の復興まちづくりを促進するために、市民が主体となったまちづくり・地域づくり活動に対する相談支援、まちづくりの先導役の育成、ネットワーキング等の事業を行っています。また、復興まちづくりに関わる各種団体や地域が行う話し合いの場づくり、組み立て、当日のファシリテーター派遣等の支援や、近隣で行われる会議ファシリテーション研修の講師依頼に対応したりなどもしています。

ワークショップフォーラムでは、会議の流れ、組み立て方、ファシリテーターの会議中の役割をお伝えした後、会議設計のワークを行い、自分でつくった会議設計で実際にファシリテーターを体験してもらうワークをしたいと思っています。

ファシリテーションに関する研修は最近多くなってきましたが、その中での実習は与えられた会議設計の中で「ファシリテーション」の部分だけを体験してみるようなパターンが案外多かったです。でも実は会議ファシリテーションにおいて重要なのは、事前の「会議設計」だったりします。そこにスポットをあて、実際に自分が作った会議設計を元にワークをしてみる事ができるというのは、かなり貴重な機会ではないかと思います。

「会議の進行役をする機会があるが、そこに不安や悩みを持っている」という方や、「そもそもの会議の進め方、組み立て方の基本を知りたい」という方におすすめします。

【NPO法人陸前高田まちづくり協働センター】

<https://rtmachikyodo.jimdo.com/>

【講師紹介⑦鈴木祐司さん】

初参戦の鈴木さんは宮城県に事務所を構える「公益財団法人地域創造基金さなぶり」の専務理事。上記財団はいわゆる助成財団ですが、東北をフィールドとしています。東北の復興と活性化のために「資金・寄付の仲介」役として、資金をお預かりし、その資金を活用した支援事業等を企画し、各種団体や起業者などへ経営ノウハウと共に「提供」されています。以下、鈴木さんからのメッセージです。

助成財団に勤務している職員という、皆さんはどのように思い浮かべるでしょうか？

実際は「申請書類(地域をよくするための企画書)のセットで会議室にこもって審査等を行う」か、「現場で活動する皆さまの所に直接訪問してお話を聴きながら地域をよりよくするための作戦会議をする」、このどちらかが多い状態です。共通しているのは、「地域の困り事を改善・解決にむけた企画づくり」という具合です。年間数百万円以上の事業から、3か月で10万円程度まで、NPO法人の方から公営住宅や地域の自治会の皆さままで、幅広くお話を伺っています。

地域の活動は、「(想い+資源)×時間=願いの達成&地域の変化」という具合に分解できます。地域や暮らしに様々な困り事があるかと思いますが、どの種類の、どのような課題に取り組むのかによって、必要となる資源も、達成にかかる時間も変わってきます。しかし、そこに、地域全体やそこで暮らす人々に対する想いや願いがある人が1人でもいなければ、活動は成長していきません。

私は現在、地域の担い手の方々に、情報と資金等の資源、そして作戦会議をすることを通じて、「必ずしも資源が十分になくても、着実に変化をつくっていく」お手伝いをしています。しかし、そこでお話していることは、全て、東北を中心に現場からお話を聴き、学び、そして変化を起こしてきた皆様の経験そのものです。

今回は参加頂く皆さんが向き合われている課題をお聴きしながら、共通軸として、企画づくり、計画づくりのお話をしますが、出来るだけ皆さんの状況に少しでもお役に立つように時間を使えればと考えています。当日、お話を伺えるのを楽しみにしています。

ワークショップフォーラムでは「企画のタネの見つけ方、事業計画の作り方」ということで、数えきれないほどの事業計画書を見て・扱ってきた助成財団の職員さんならではの視点で、事業計画の作り方のポイントはもちろん、それを実行していくためのノウハウに対してもヒントをいただけるかと思います！

これから新たな事業に取り組もうとしている人はもちろん、鈴木さんのように事業計画書に対して指導やアドバイスを行わなければいけない立場の人にもぜひ受けていただきたい内容です！

【公益財団法人地域創造基金さなぶり】

<http://www.sanaburifund.org/shien/>

【講師紹介⑧古川大さん】

古川さんと言えばシンガーソングライターの吉野崇さんとの音楽活動や、そこからのラジオ番組等でご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、本業はコンカツ印刷さんのチーフデザイナーさんです。

古川さんの手がけた制作物でまず目を奪われるのはそこに登場する被写体の美しさ！もちろん被写体そのものが素敵なんだろうけど、その良さを最大限に引き立たせるようなカメラワークなんです。食べ物であれば、正直、実際に本物を見るより美味しそうに見えてしまうこともあるくらい(笑)

そして次にグッとくるのが、その被写体に添えられたキャッチコピー。なんとキャッチーな、でも適格で、つい読み上げたくなるようなキャッチコピーなんです。そんな古川さんの今回のワークタイトルが「惚れチカラは、惚れさせチカラ。」やっぱキャッチー！では、古川さんからのメッセージをご紹介します。

一関市の印刷会社、コンカツ印刷でチーフデザイナーをしています。入社して15年程、打ち合わせから写真撮影・コピーライティングまで担当することも多くなりました。ほぼ一日コンピューターの前での作業だった入社当時に比べ、実際に作業できる時間は減りますが、こんなイメージでデザインをしよう、と思いながら撮影したり、お客様と印刷物以外のお話しながら製作を進めることは、遠回りのように見えて、その形態がお客様の意図するゴールへの最短コースになることが多いことに気がつきました。

伝えなければいけないものがあるとき、どのようにその良さを伝えたいのか。原動力になるのは「惚れる」こと。その対象の一番の理解者になるつもりで向き合くと、その「ならでは」な視点が、密度の高い説得力で誰かの心を動かします。

「惚れる」ためにはどんなアプローチでその対象と向き合えば良いのか、カメラワークやレイアウトのポイントもさることながら、きっとそうした根本的な部分を体感することができるワークにしてくれるはず。それは決して何か「商品」を紹介するような立場の人たちだけでなく、「人」を紹介したり「活動」を紹介する人にも当てはまることかと思えます。「広報」という広い切り口の中で、「見せ方・魅せ方」について考えてみることもできるワークです。

【コンカツ印刷有限公司】

<http://www.konkatsu.com/>

【講師紹介⑨佐野智香さん】

佐野さんは新潟在住ではありますが、2008年から岩手県にも活動フィールドを持っており、現在もNPO法人点空社(てんからしゃ)として金ヶ崎や紫波などで活動されています。

佐野さんが今回担当するのは「ファシリテーショングラフィック」。ファシリテーショングラフィックとは、簡単に言えば話し合いの内容を分かりやすく書き留め、「見える化」することによって話し合いを促進し、整理する手法です。

単なる「板書」ではなく、要点を分かりやすくまとめたり、図にしてみたり、イラストにしてみたり、「今何を話していて、どんな方向性に進んでいるのか」が誰にでもわかるようにしていきます。

普段から地域等における計画づくりや合意形成を行う場、またそれを担う人材の育成を行う場でお仕事をされているという佐野さんですから、ファシリテーショングラフィッカーとしての経験は豊富。単なるグラフィックのコツやポイントだけでなく、ファシリテーショングラフィックの利活用の仕方や、話し合いの場面場面による工夫の仕方などについても事例を交えてレクチャーしてくれることかと思えます。

今回のワークタイトルは「『ファシリテーション×グラフィック×場づくり』で、現場を動かす!?!」とのこと。何か1つだけでもダメで、3点を掛け合わせた時に現場は動いていく、ということでしょうか。

「ファシリテーションはそれなりにできるけどグラフィックが苦手」逆に「ファシリテーションが苦手だからグラフィックをメインにしながら話し合いをサポートしたい」そんな方にも良いかもしれません。

基礎的な練習から、実際の演習まで3時間の中でみっちり行ってくださるとのことですので、気になる方はお早めに！

【株式会社カントリー・ラボ】

<https://countrylab.jimdo.com/>

申し込み締め切り……11月1日(水)

※基本的には先着順です。お早目のお申込みをお願いします。

※定員を超えたワークにお申込みをいただいた場合、第2希望への調整をかける場合がございます。